

小山市立博物館

博物館だより

2020
3.15

70

指定1周年記念特別展

「国重要無形民俗文化財 間々田のじゃがまいた」

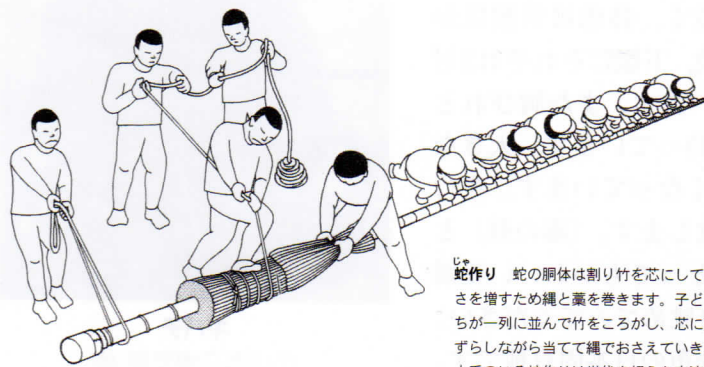
パネル展示 令和2年4月18日(土)～6月28日(日) [写真パネル・DVD上映]

本展示 令和2年5月16日(土)～6月28日(日) [写真パネル・DVD上映・資料展示]

平成31年3月、「間々田のじゃがまいた」は国の重要無形民俗文化財に指定されました。

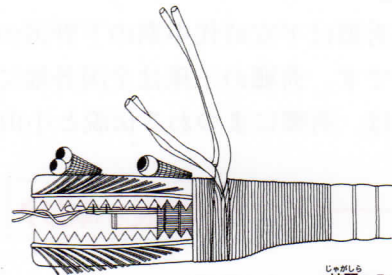
この展示では指定1周年を記念して、間々田のじゃがまいたの学術的な価値とともに祭礼行事としての魅力を、皆さまに広く深く知っていただくことを目的に開催するものです。じゃがまいたの変遷や、地域で継承される蛇体の製作技術、じゃがまいたが地域に果たしてきた役割やこれからも含め、じゃがまいたをさまざまな観点から紹介します。

間々田のじゃがまいたの活気あふれる息遣いをこの展示から感じとっていただき、本物のじゃがまいたへ足を運ぶきっかけにさせていただけたらと思います。

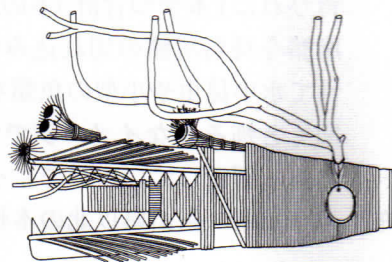
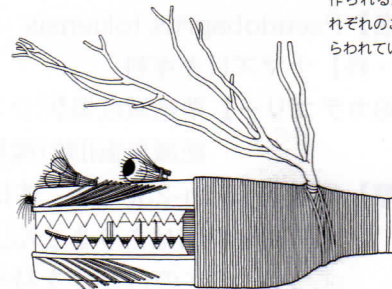


作図 宮本八恵子氏

蛇作り 蛇の胴体は割り竹を芯にして、太さを増すため縄と藁を巻きます。子どもたちが一列に並んで竹をころがし、芯に藁をずらしながら当てて縄でおさえていきます。人手のいる蛇作りは世代を超えた交流の場にもなっています。



じゃがしら蛇頭 7つの町内毎に作られる蛇頭には、それぞれのこだわりがあらわれています。



【記念講演会1】 4月29日(水・祝) 13:30～15:30

「じゃがまいたって何だろう

～『間々田のジャガマイタ調査報告書 2018』をめぐる～」

講師：元間々田のジャガマイタ調査委員会

委員長 岩崎 真幸 氏

【記念講演会2】 5月23日(土) 13:30～15:30

「間々田のじゃがまいたの蛇作りとそのこだわり」

講師：元間々田のジャガマイタ調査委員会

委員 宮本 八恵子 氏

* 上記講演会は 対象：一般、定員：70名(先着・電話で要予約)

場所：博物館視聴覚室、参加費：無料

【記念講座】 6月6日(土) 13:30～16:00

「間々田のじゃがまいたのミニミニ蛇を作ろう！」

対象：小学3年以上～一般

定員：15名(抽選)、場所：博物館体験学習室

材料費：500円

申し込み：ハガキに講座名・氏名・住所・電話番号を書いて5/14(木)必着

<開館時間> 9時～17時(入館は16時30分まで)

<入館料> 無料

<休館日> 毎週月曜日(5/4(月)は開館)、4/24(金)・30(木)、5/7(木)・22(金)、6/26(金)

<問い合わせ> 博物館 小山市乙女1-31-7 tel 0285-45-5331

夏

栃木県立博物館地域移動博物館「化石を探る」

7月18日(土)～8月30日(日)

過去の生物を知るためには、大地に眠る化石を掘り出しその姿形を復元するしか方法がありません。化石は過去の生物の姿形だけではなく、暮らし方や当時の環境、進化なども知ることができます。今回の展示では、地球の生命の歴史を辿るとともに、化石が持つ情報「生態や進化、古環境」などにも触れていきます。



秋

小山市立博物館 第73回企画展「秀郷伝説異聞」

10月24日(土)～11月29日(日)

藤原秀郷は平安時代中期の下野国の武将で、平将門の乱鎮圧に活躍し、武者の世への道筋を開いた立役者です。秀郷の子孫は全国各地に広がり、伝説的な武将として後世に語り継がれました。今回の展示では、秀郷にまつわる伝説と小山氏の関係について紹介します。

生態展示紹介 新しい仲間「ギバチ」

【和名】ギバチ(義蜂)

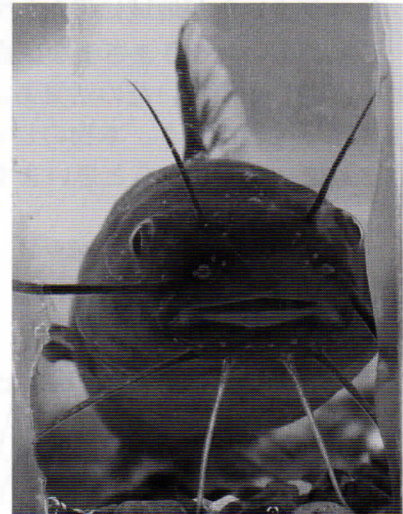
【学名】*Pseudobagrus tokiensis*

【目・科】ナマズ目ギギ科

【RDBカテゴリー】準絶滅危惧【Cランク】(栃木県)
絶滅危惧II類(環境省)

【生態】体長約15cm-25cmで、体は細長く、体色は茶褐色から黒褐色で鱗はありません。上顎、下顎にそれぞれ2対ずつ合計8本の口ひげを持っています。また胸びれと背びれに1本ずつ合計3本の棘を持っています。大きな脂鱗を持ち尻鱗の切れ込みは浅くなっています。夜行性で水中昆虫や小型の魚類を捕食します。「毒の棘」と聞くと怖そうなイメージですがとってもかわいい愛嬌のある顔をしているのでじっくり眺めてみてください。

【分布】神奈川県・富山県以北の本州に分布の日本固有種です。



ギバチ

小山市立博物館 蔵

令和2年度前期観望会の見どころ

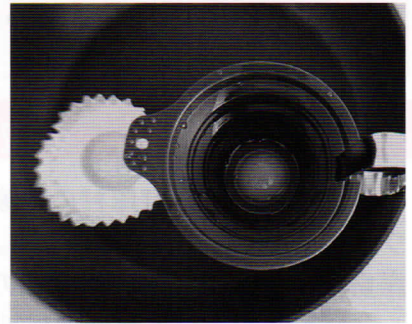
毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場で太陽観測を行い、夜は生井公民館で季節ごとに見られる星座や星の観測を行います。今年の4・5月は「金星」を西の空に見ることができます。そして6月には「水星」が西方最大離隔を迎えます。条件さえ整えば水星を見つけることができるかもしれません。金星も水星も月と同じように満ち欠けをします。半月型の金星・水星を観察してみましょう。また、星座としては、「しし座」「おとめ座」「はくちょう座」「夏の大三角」などが夜空に大きく現れます。はくちょう座のくちばし部分の星「アルビレオ」は、「北天の宝石」とも呼ばれるオレンジ色と青色の二重星です。望遠鏡でのぞいてみましょう。月に一度の夜のひととき、お待ちしております。

「発明は愛である！」

人類の夢を実現し、その発展にとってかけがえのない創造力の成果が発明です。

現在、全国に200ヶ所以上の発明クラブがありますが、栃木県では「小山市少年少女発明クラブ」だけです。毎年行われる栃木県児童生徒発明工夫展には、子どもたちのアイデアと指導者の支援によりたくさん作品を出品することができ、優秀な成績をあげています。今回も金賞2点、銀賞5点、銅賞3点が入賞しました。

金賞の2点は科学技術館で行われる全国大会に出品されています。県内で3団体のみ選ばれる団体賞を9年連続受賞しました。さ



簡単!!目玉焼き



キッチンシンクの見張り番

らに小山市の教育文化功労者表彰において優良団体賞をいただきました。「思いやりの心」や「ものを大切に作る心」を胸に抱き、子どもたちは指導員の先生方と一緒に楽しく作品作りを行っています。(写真は全国大会出品作品です)

さて今回は、子ども安全を願うお母さんの愛情発明『ブザーつりつり』のおはなしです。子どもたちの安全安心の登下校のために、防犯ブザーやホイッスルを携帯する指導を学校や自治体が行っています。首から下げると不審者に首を絞められる恐れがあり危険だという意見もあるため、1年生の子どもを持つお母さんの山形さんは頭を悩ませていました。なぜなら、子どもの首から下げられないと服のポケットに入れるしか方法がありませんが、それでは不審者から見えないので防犯にならず、いざというときにすぐにブザーが鳴らせません。考えた結果、たどり着いた答えは「ランドセルの肩ベルトあたりに付けること」でした。ランドセルの側面では子どもの手が届かないからです。ランドセルメーカーに提案したところ「今あるランドセルに手を加えるものでは商品化は難しい」とのことでした。それでも山形さんは、自分の子どものため、すべての子どものために思い、諦めずに試作を繰り返しました。そしてリュックサックからヒントを得て「肩ベルトを通して使うフック」というアイデアを生み出したのです。『ブザーつりつり』は、まさに我が子への愛情から生まれた心温まる発明ではないでしょうか。

コラム 博物館職員雑記

楽しい博物館

指導主事 十市 祐輔

博物館に勤務するようになってもうすぐ1年。学校からの異動で、当初は違いすぎる環境に戸惑いの連続でした。それでも、周りの職員の方々に助けていただきながら、なんとか日々の仕事をこなすことができました。歴史学習に始まり、昆虫教室や天文教室、郷土学習など博物館や学校で子どもたちとふれあえる機会はとても楽しい時間でした。いろいろな学校の子供たちと関わることで、教員として勉強になることも多く、また学校教育における博物館の関わり的重要性も知ることができました。



そして、この1年での大きな変化は、今まで知らなかった世界をたくさん知って、見えなかったものに目を向けられるようになったことです。夜には空を見上げ気になる星は調べようになりました。飛んでいる鳥は「鳥」ではなく、鳥の名前が気になるようになりました。川の流れや地形が気になって、実際に行って目で確かめたり、地図で確かめたりするようになりました。知りたいと思うこと、気になることが増え、毎日がとても充実しています。この知的なワクワク感を小山市の子どもたちにも、たくさん味わってもらえるように、博物館の指導主事として関わっていきたいと思います。

「博物館ボランティア」・「天体ボランティア」募集中

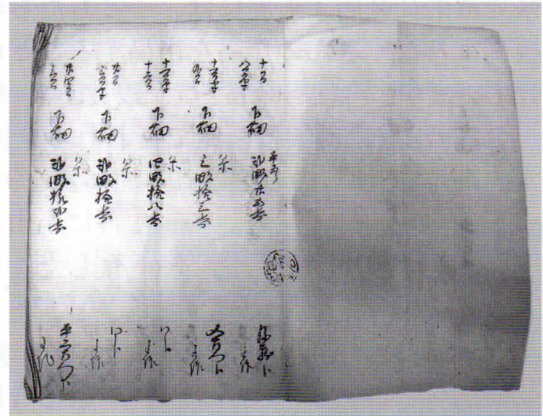
博物館では随時ボランティア会員を募集しています。
お気軽に事務局までお問い合わせください。(TEL0285-45-5331)



新収蔵資料紹介 岸ウタ家文書「下国府村御縄打水帳」

本資料は、下国府塚村の岸家に残された古文書、岸ウタ家文書のなかのひとつです。岸ウタ家文書は今年度、岸嘉彦様より寄贈され、博物館の新収蔵資料となりました。

今回紹介する「下国府塚村御縄打水帳」は、慶長18年(1613)に作成されたもので、本多正純が行った検地の記録です。上段から、田畑の縦横の長さ、等級、小字名、面積、土地保有者と耕作者の名前が書かれます。一筆目(1行目)を読むと、縦横10間と8間半で、等級は「下畑」、小字名は「平五郎」で、面積が2畝25歩。土地の保有者は「弥蔵」で、「主作」というのは弥蔵が自分で(自分の家族で)耕作している土地、という意味です。



面積を実際に計算してみましょう。1間×1間=1歩です。したがって、10間×8.5間では、85歩となり、1畝=30歩なので、2畝と25歩、計算通りです。通して読んでいくと、かなり細かく計算されていることがわかります。

また帳面の最後には、担当した役人の名前が書かれています。その一人「近藤理右衛門」は、この検地帳が作成される5年前に、本多正純の弟の忠純が榎本領で行った検地帳にも見える名前です。どちらの家臣なのか不明ですが、兄弟が協力して、検地に詳しい家臣を融通していたようです。

「検地帳」を実際に読み進めたことのある人は少ないと思いますが、実は多くの情報を読み取ることができる、大変興味深い史料なのです。

十間
八間半
下畑
式畝廿五歩
平五郎
弥蔵分
主作



寄贈者芳名

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます(敬称略)

- 角田 光行(小山市若木町) 第二次世界大戦関係資料一式
- 岸 嘉彦(小山市下国府塚) 古文書15,026点、民具資料一式ほか
- 六軒自治会(小山市東野田) 消防ポンプ3台、トビロ3本、消防半てん3枚ほか
- 山中 徳一(小山市東野田) カギツルシ、ザクソ(糸繰り器)
- 蟻生 勇(小山市小葉) カラスキ、モミカエシ、ホリサライ、ショイコほか
- 内河 睦明(小山市中里) ボウバカリ、オモリ

発行年月日 令和2年3月15日
発行 小山市立博物館(JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7
電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247
HP <http://www.city.oyama.tochigi.jp/site/hakubutu/>
印刷 株式会社ダイサン小山

